

僕のふるさと富貴とその未来

富貴中学校 二年 梶部 創太

皆さんの学校には、生徒は何人いますか？僕の通っている富貴中学校の全校生徒は「二人」です。周りから見ると、「二人で寂しくないの？」と思われるかもしれませんが、確かに、二人だと、他の学校よりは、出来る事も少なく、寂しいのかも知れません。しかし、他の学校では出来ない「二人だからこそ出来る」ということが、僕達の中学校にはあります。例えば、先生との距離が、とても近く、家族のように接することが出来ます。また、学校の農園では、十種類を超える野菜を作っていて、それを収穫したり、おいしくいただくことの楽しさを味わうことができます。運動会などでは、地域の方にも、参加していただき、「富貴」の一大イベントとなっています。

しかし、明るい学校生活をしていても、一番気にかかるのは、僕達のふるさとの「未来」です。校区内に、児童がいないため、富貴小学校は、僕達が卒業して、休校となりました。今、通っている富貴中学校も、あと二年で休校となります。とても寂しいです。そんな中、今、僕が強く思っている事があります。それは、「ふるさと」を守りたいということです。「ふるさと」を守るためにどうすればよいかを考えた時、まず、思いついたのが、富貴の人口の事でした。

なぜ、「富貴」は、人口が少ないのでしょうか？それは、最近ニュースなどでよく聞く、「少子高齢化社会」「過疎化」が進んでいることが原因だと思います。一般的に、若い人達は、交通などが不便な「地方」から、様々な事が出来る、便利な「都会」へ行こうとします。だから、「地方」は人口が減り、「都会」では、人口が増えるのだと思います。僕は、この「都会」に集まっている人達が、「地方」に来ればいいのと思っています。そうすれば「地方」は人口が増え、「都会」は過密状態が解消されます。「地方」の人口を増やすためには、「都会」の人が、「来たい。」と思えるような魅力がないといけないと思います。

「富貴」には、魅力になるような物は、何があるのでしょうか？そう考えて、すぐに出てきた答えは、「周囲の豊かな自然環境」と「地域の人々の温かさ」でした。「富貴」は、四方が山に囲まれていて、豊かな自然の中にあります。「都会」の人は、自然に触れる機会があまりないと思うので、この「豊かな自然環境」は、きっと魅力になると思います。

二つ目の「地域の人々の温かさ」は実際に学校への登下校中に感じたことです。地域の方に、こちらから声をかけると、「おはようさん。」お帰りなさい。」と農作業をしていても、手を止めて、話をしてくれます。僕は、そんな時に「僕達は、地域の人に見守られているのだな。」と思います。また、地域の伝統も魅力だと思います。「富貴」の伝統的な行事には、「ちまき作り」があります。「ちまき」は、少し遅い、六月五日の節句に食べる、邪気を払う食べ物として、伝えられてきました。富貴中学校では、五月になると、山に入り、「ちまき」を包むための、笹を取って来て、地域の方々と一緒に、「ちまき」を作ります。そして、地域の八十歳以上の一人暮らしの方々に届けるという行事を、毎日実施しています。「ちまき」を届けると、「わざわざ届けて来てくれてありがとうよ。」と何度も何度もお礼を言ってくれます。この声を聞くと、僕は、心に温かい気持ちが入り込んで来ます。

これまでに紹介した事以外にも、たくさん伝統が、「富貴」にはあります。僕は、その伝統が、温かいふるさとを、いつまでも大切にしていきたいと思っています。だから、これからも、地域のことを考えて、より、富貴が明るくなるように、努力していこうと思います。ふるさとの「未来」……。それは、僕達の「未来」でもあるのです。